

Q.公的な役割とは。

長谷川院長／救急医療のほか、地震などの大規模な災害や事故の発生時に拠点病院として対応し地域を守ることなどです。

Q.名古屋記念病院は開院以来民間の医療機関としては異色ともいえるがん医療に積極的に取り組み、高い評価を得ています。

長谷川院長／歴代院長には、がん医療の分野で世界的にもご高名な先生方が多く、最先端の抗がん剤治療で高い実績があります。

名古屋記念病院のがん医療、特に抗がん剤治療の実績は他のがん専門病院にも引けを取らないと自負しており、がん医療に対する伝統は今も脈々と受け継がれて今日に至っています。がんはわが国の死因では最も多く、がんに対する皆さんの要望はよく理解していますので、名古屋記念病院の特徴の一つであるがん医療をさらに充実させてがんの治癒率を上げるよう努力していきます。

また、がん支援センターでは安心してがん治療が受けられるようがんの専門看護師、専門薬剤師などが力を合わせて副作用や心のケアにも取り組んでいます。

Q.救急医療にも高い信頼がありますね。

長谷川院長／急なけがや病気にかかった時、いつでも受け入れてくれる医療機関があることは地域にとっても心強いことだと思います。救急医療には地域に安心を提供するといった観点からも力を入れて取り組んでいます。

名古屋記念病院はいつでも安心して救急医療が受けられるよう体制を整えていますが、まだまだ完璧なものとは思っていません。いずれは「緊急時の医療は名古屋記念病院」という信頼を得たいと思っていますし、そのために努力を続けていきます。

Q.緊急時の小児医療も頑張っていますね。

長谷川院長／お子さまがいるご家庭では、急な病気、特に休日・夜間での発症は不安が強くなります。名古屋記念病院では、こう

したご家族の不安を取り除いてあげることに力を注いでまいりました。365日24時間で小児の救急医療に対応できる体制を敷いています。

Q.そこまで体制をとっていると子供を持つご家族にとって名古屋記念病院は心強い存在だと思います。乳幼児の新規の入院患者数はかなり多いようですね。

長谷川院長／名古屋市東部と長久手市、日進市、東郷町など合せたこの地域の医療機関の中では小児の新規入院患者数は一番多いのではないかと考えています。

Q.少子化傾向を反映して全国的にお産のできる医療機関は減っていますが名古屋記念病院には産科もありますね。

長谷川院長／10数年前、産科の閉院が相次ぎ社会的問題になりました。名古屋記念病院周辺の地域住民からも「安心してお産ができない」といった声がありました。そうした地域住民の不安を解消するために産科を開設し、充実させてきました。

Q.これも地域医療に貢献するという名古屋記念病院の公的役割の一つですね。

長谷川院長／地域住民の声を吸い上げ、可能な限りそうした要望に応え、実現していくとする姿勢は大事ではないでしょうか。

Q.そうはいつでも一つの診療科を作るとするのは難しい面があるのでは。

長谷川院長／確かに医師、看護師をはじめとしたマンパワーの確保など容易ではないことも多くあります。しかし、そうした難

題に果敢に取り組んでいくことは、地域に貢献する病院となるために不可欠だと思っています。

Q.名古屋記念病院の病診連携は地域の開業医と上手く運営され、一つのモデルケースとも言われています。

長谷川院長／連携室は少ないスタッフで運営していますが、名古屋記念病院が紹介患者が多いため、大学病院など大きな医療機関の連携室の方もしばしば見学に来るほどです。

Q.どんな反応がありますか。

長谷川院長／連携室のスタッフの働きぶりを見たり、当院のシステムを聞かれて帰られています。実際の運営ぶりを見られて「大変参考になった」といった声を聞いています。

Q.少子化高齢化の中で今後名古屋記念病院はどんな取り組みをしていきますか。

長谷川院長／少子化は日本全体としても大きな問題です。少子化の要因はいろいろありますが、名古屋記念病院では、地域の方々の出産や子育てに安心なお手伝いができるよう産科・小児科・救急の充実に取り組んでいきます。

高齢化社会への対応については地域全体で皆様の健康を守ることを考える必要があります。名古屋記念病院としては、かかりつけ医、回復期あるいは療養型病院、福祉施設などと連携を取りながら急性期病院としての役割を発揮できるよう医療機能の向上を目指していきます。

